

小学生



特性

文字を覚え、読書の喜びを知り、徐々に主体的に読書習慣を身につけていく時期です。

方針

図書館と学校や地域が連携し、読書環境の整備や調べ学習の充実を図ります。おすすめの本の紹介や本を活用した体験を通じて、本を好きになってもらい、自主的な読書を促します。

アクションプラン

- ◆読み聞かせの啓発・実施
- ◆本を活用した様々な体験の提供
- ◆おすすめの本の紹介
- ◆学校図書館の整備
- ◆おはなし会の実施
- ◆電子メディアを活用した読書活動
- ◆たきかわっ子ワクワクまなびプログラムなどの実施
- など

中学生



特性

勉強などで、読書時間が減少する傾向が出てきます。読書を習慣づける取り組みや、多様な趣味・関心に応じた読書環境の整備が重要です。

方針

読書環境の整備を図るとともに、おすすめの本の情報発信やICTの活用による読書推進の取り組みを実施します。

アクションプラン

- ◆おすすめの本の紹介
- ◆授業などでの図書館の活用
- ◆読書環境の整備
- ◆図書委員会の活動の充実
- ◆電子メディアを活用した読書活動
- ◆資料の充実
- など

本を読んで、大きくなーれ！！



高校生



特性

不読率が増加する時期です。本との出会いが、人間的成長のきっかけにもつながることから、身近な人々たちによる本を薦める取り組みが大切です。

方針

おすすめの本の紹介やICTの活用により読書意欲を高め、読書率の向上を図ります。

アクションプラン

- ◆おすすめの本の紹介
- ◆クラスや委員会、部活動などでの図書館の活用
- ◆資料の充実
- ◆読書環境の整備
- ◆電子メディアを活用した読書活動
- など

多様な支援を必要とする子ども



特性

障がいのある子どもや学校に通うことができない子ども、日本語能力に応じた資料を求める子どもなど、個々の状況に応じた対応が必要となります。

方針

様々な子どもが読書に親しめるよう、環境の整備や資料の充実に努めます。

アクションプラン

- ◆図書館訪問の実施・活用
- ◆読書環境の整備
- ◆読書補助器具の整備
- ◆点字併記図書など、様々な資料の収集
- ◆出張おはなし会の実施・活用
- など

子どもと関わる大人



特性

大人が本を読んであげたり薦めることで、「読んでみたい」という気持ちを芽生えさせることができます。身近な大人が読書の重要性を認識することが、子どもの読書推進には欠かせません。

方針

子どもの読書の大切さを伝え、読書活動を支える人材の育成や、図書館の活用を促します。

アクションプラン

- ◆出張おはなし会の活用
- ◆読書推進活動への参加
- ◆地域人材の活用
- など